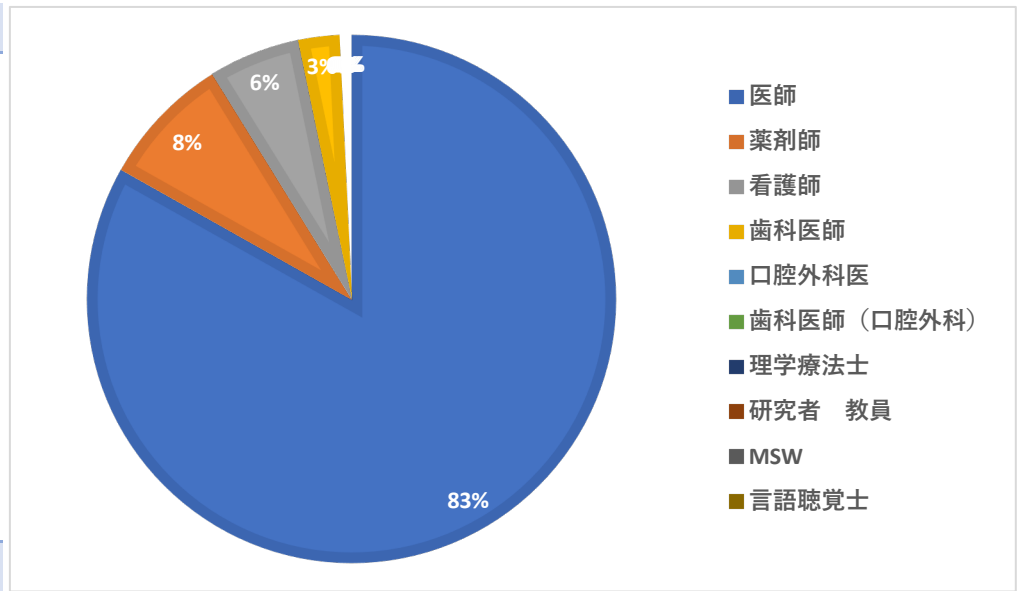


Ⅰ. 属性質問項目

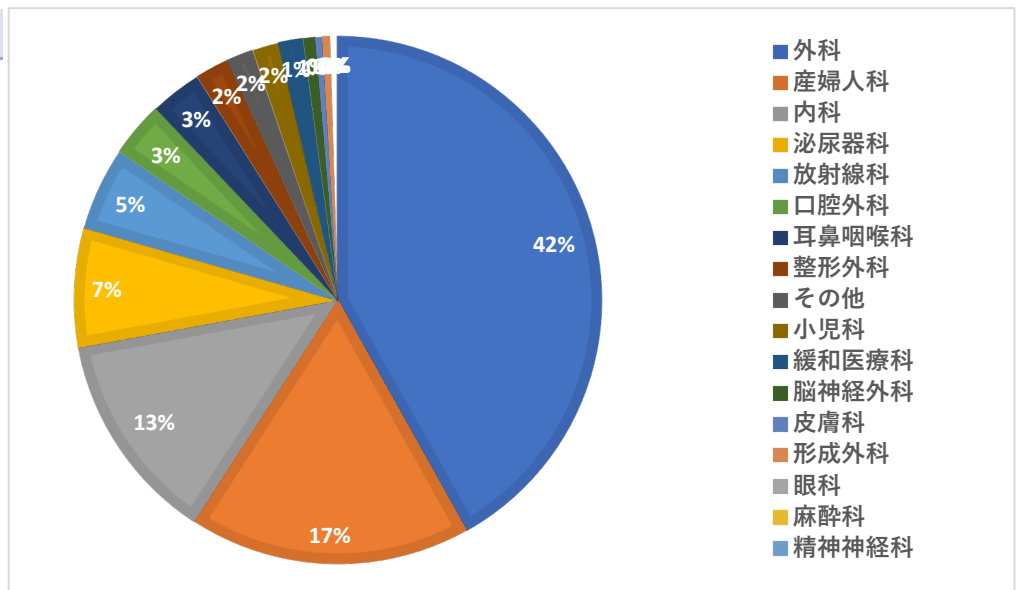
1.あなたの職種を選択してください

職種	人数	比率
医師	671	83.1%
薬剤師	65	8.1%
看護師	45	5.6%
歯科医師	20	2.5%
口腔外科医	1	0.1%
歯科医師（口腔外科）	1	0.1%
理学療法士	1	0.1%
研究者 教員	1	0.1%
MSW	1	0.1%
言語聴覚士	1	0.1%
総計	807	100.0%



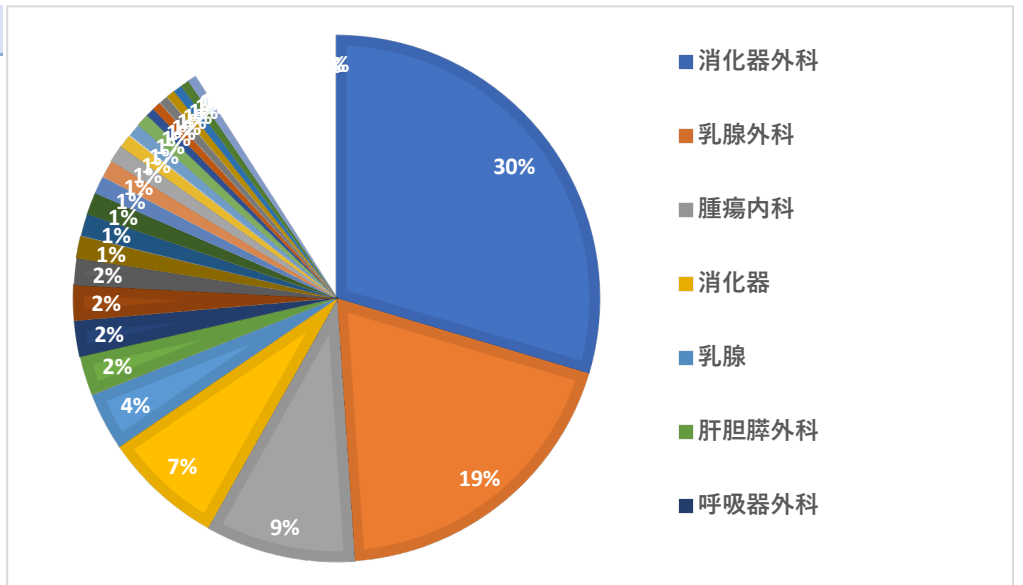
医師と答えた方は以下より所属を選んでください

所属	人数	比率
外科	281	41.9%
産婦人科	116	17.3%
内科	87	13.0%
泌尿器科	49	7.3%
放射線科	34	5.1%
口腔外科	23	3.4%
耳鼻咽喉科	21	3.1%
整形外科	14	2.1%
その他	11	1.6%
小児科	11	1.6%
緩和医療科	10	1.5%
脳神経外科	5	0.7%
皮膚科	3	0.4%
形成外科	3	0.4%
眼科	1	0.1%
麻酔科	1	0.1%
精神神経科	1	0.1%
総計	671	100.0%



内科・外科の先生は、専門分野をお書きください

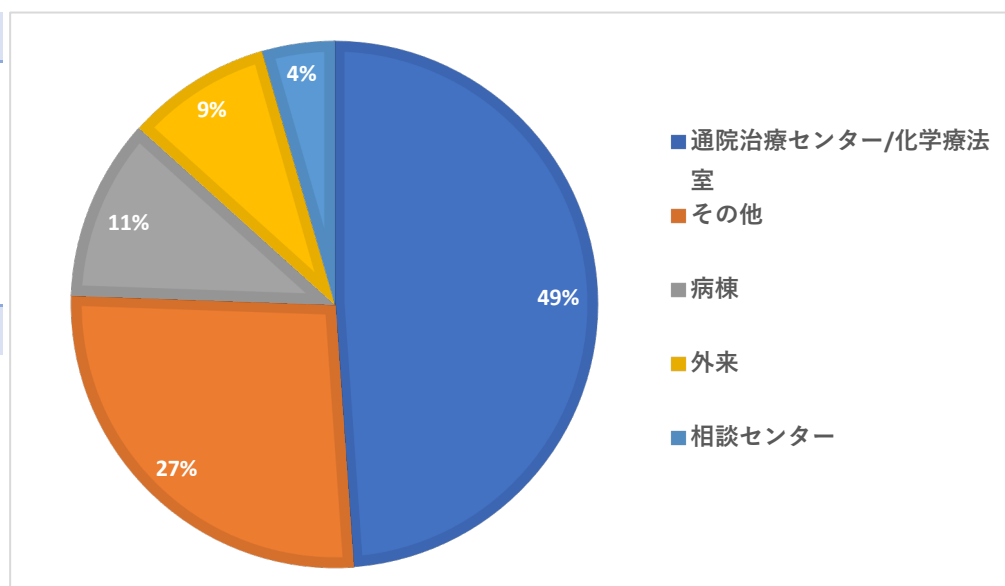
専門分野	人数	比率
消化器外科	109	29.6%
乳腺外科	71	19.3%
腫瘍内科	34	9.2%
消化器	27	7.3%
乳腺	13	3.5%
肝胆膵外科	9	2.4%
呼吸器外科	8	2.2%
呼吸器内科	8	2.2%
呼吸器	6	1.6%
血液内科	5	1.4%
消化器内科	5	1.4%
小児外科	5	1.4%
血液・腫瘍内科	4	1.1%
乳腺・内分泌外科	4	1.1%
消化管外科	4	1.1%
一般外科	3	0.8%
乳癌	3	0.8%
乳腺科	3	0.8%
血液・腫瘍	2	0.5%
大腸外科	2	0.5%



上部消化管	2	0.5%
循環器内科	2	0.5%
内分泌外科	2	0.5%
乳腺内分泌外科	2	0.5%
肝胆膵内科	2	0.5%
呼吸器内科、腫瘍内科、緩和ケア	1	0.3%
消化器外科・腫瘍外科	1	0.3%
胆道・膵臓内科	1	0.3%
下部消化器外科	1	0.3%
肝臓外科	1	0.3%
乳腺内分泌	1	0.3%
大腸・肛門外科	1	0.3%
化学療法科/緩和ケア	1	0.3%
腫瘍内科 消化器内科	1	0.3%
呼吸器内科、がんゲノム医療	1	0.3%
消化器癌	1	0.3%
肝・胆・膵外科	1	0.3%
消化器内科・腫瘍内科	1	0.3%
乳がん	1	0.3%
上部消化管外科	1	0.3%
下部消化管	1	0.3%
外科	1	0.3%
乳腺・甲状腺外科	1	0.3%
腫瘍内科 血液内科 消化器内科	1	0.3%
下部消化管外科	1	0.3%
消化器外科、乳腺	1	0.3%
肝胆膵	1	0.3%
血液腫瘍科	1	0.3%
乳腺・消化器	1	0.3%
乳腺外科、消化器外科	1	0.3%
消化器外科 肝胆膵外科	1	0.3%
消化器 乳腺	1	0.3%
乳腺外科 美容外科	1	0.3%
消化器k外科	1	0.3%
肝胆膵外科・移植外科	1	0.3%
肝臓	1	0.3%
一般・消化器外科	1	0.3%
消化管	1	0.3%
総計	368	100.0%

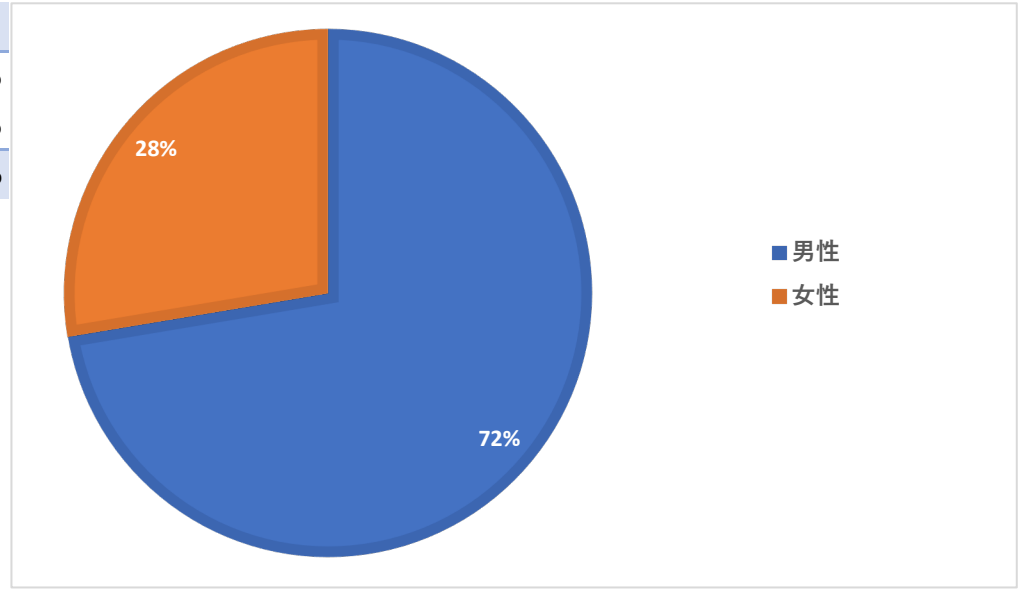
看護師と答えた方は以下より所属を選んでください

所属	人数	比率
通院治療センター/化学療法室	22	48.9%
その他	12	26.7%
病棟	5	11.1%
外来	4	8.9%
相談センター	2	4.4%
総計	45	100.0%



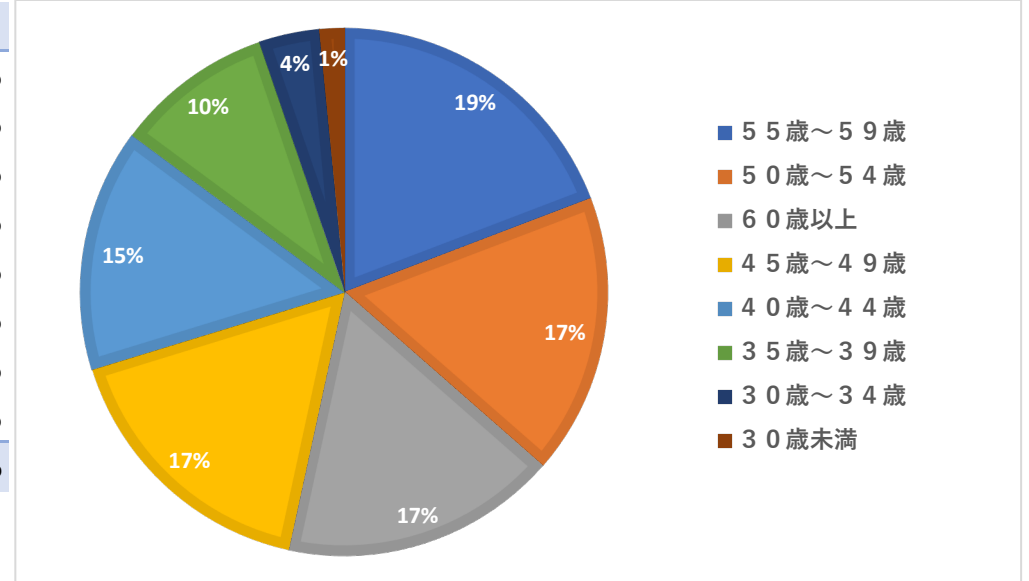
2.性別

性別	人数	比率
男性	584	72.4%
女性	223	27.6%
総計	807	100.0%



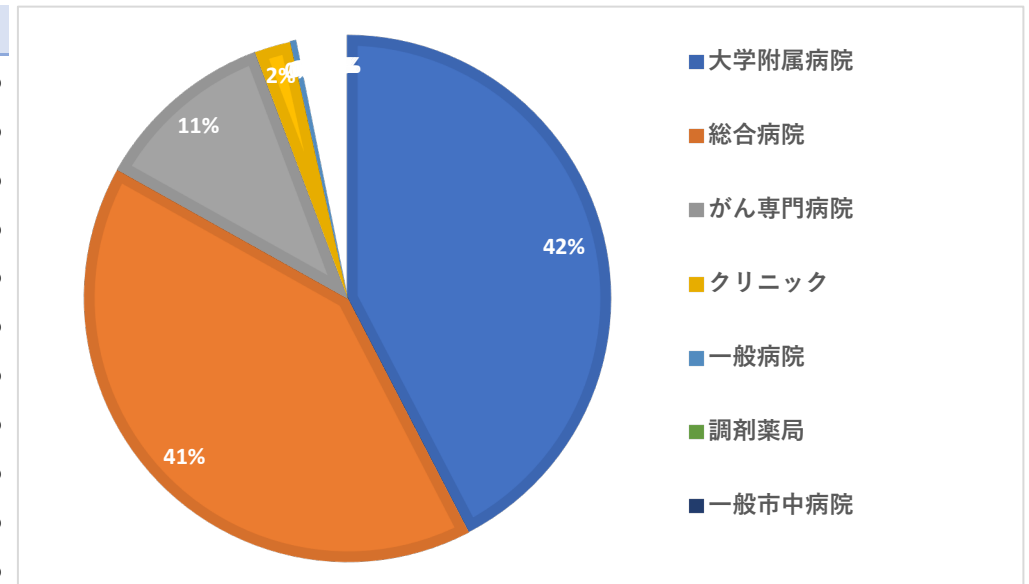
3.年齢

年齢	人数	比率
55歳～59歳	155	19.2%
50歳～54歳	139	17.2%
60歳以上	137	17.0%
45歳～49歳	136	16.9%
40歳～44歳	120	14.9%
35歳～39歳	78	9.7%
30歳～34歳	30	3.7%
30歳未満	12	1.5%
総計	807	100.0%



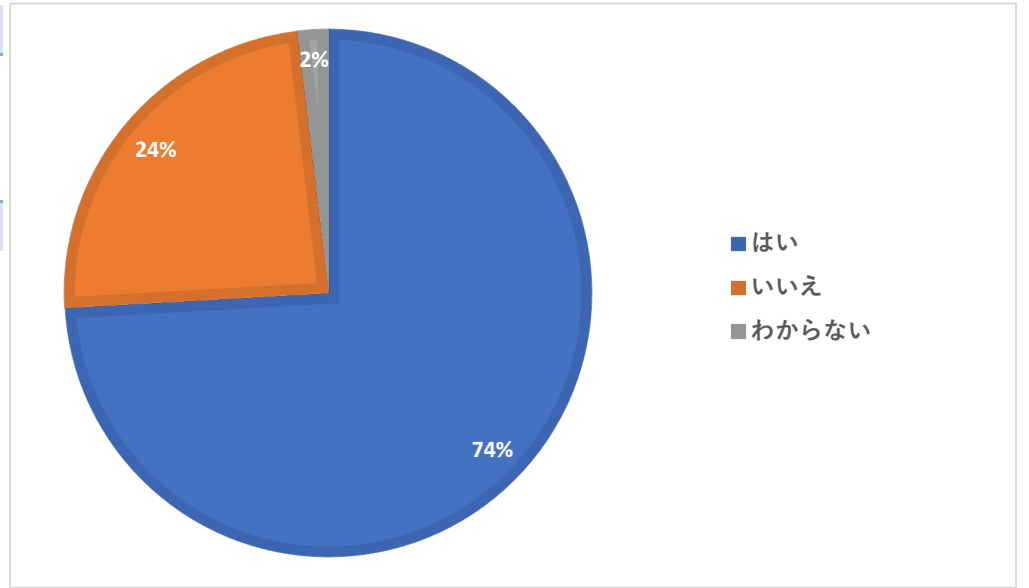
4.ご所属施設の種別を選択してください

施設の種別	個数	比率
大学附属病院	342	42.4%
総合病院	329	40.8%
がん専門病院	90	11.2%
クリニック	18	2.2%
一般病院	3	0.4%
調剤薬局	2	0.2%
一般市中病院	1	0.1%
無職	1	0.1%
医療系大学	1	0.1%
一般外科病院	1	0.1%
私立病院	1	0.1%
陽子線治療施設	1	0.1%
女子大学看護学部	1	0.1%
医療療養型病院	1	0.1%
自治体病院	1	0.1%
一般病院（現在総合病院の表記は不適切です）	1	0.1%
小児病院	1	0.1%
教員	1	0.1%
大学院生	1	0.1%
健診施設	1	0.1%
中小病院	1	0.1%
研究施設	1	0.1%
泌尿器科・透析 病院	1	0.1%
個人の専門病院	1	0.1%
薬局	1	0.1%
呼吸器専門病院	1	0.1%
療養型病院	1	0.1%
呼吸器病院	1	0.1%
公立病院	1	0.1%
総計	807	100.0%



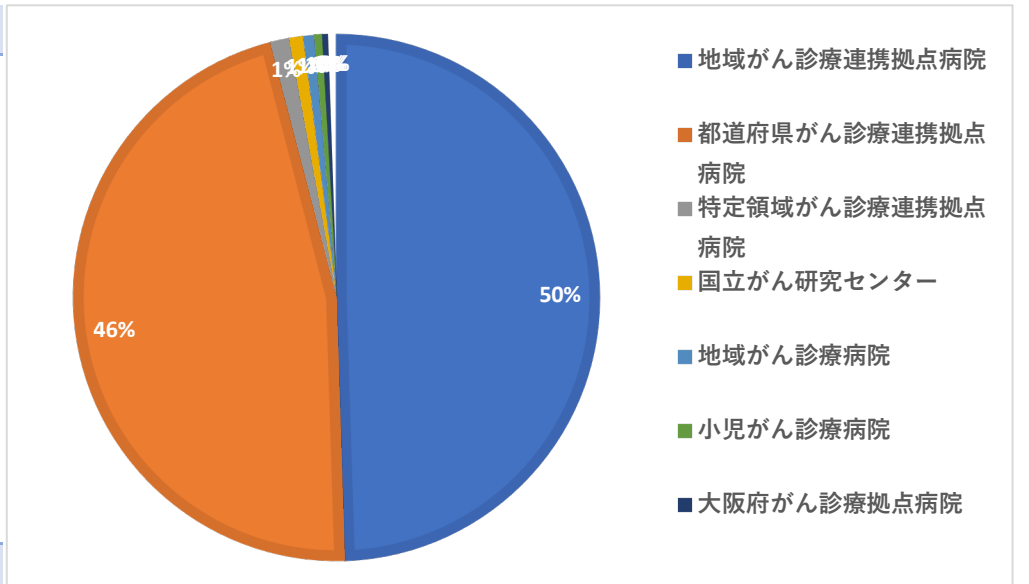
5. ご所属施設はがん診療連携拠点病院ですか

回答	人数	比率
はい	598	74.1%
いいえ	194	24.0%
わからない	15	1.9%
総計	807	100.0%



S-Q 『ご所属施設はがん診療連携拠点病院ですか』に『はい』と答えた方は下記より当てはまる項目を選択してください

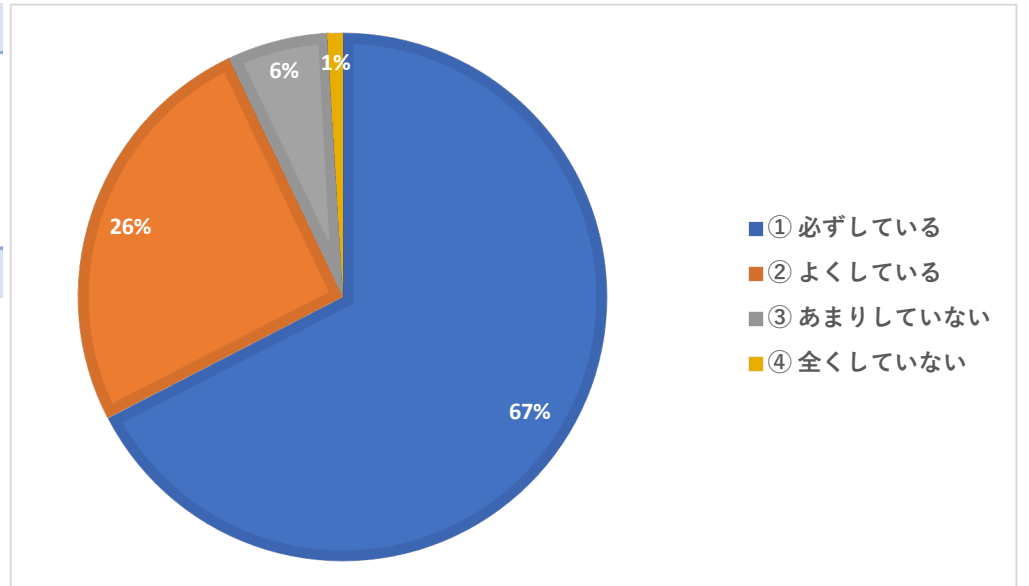
回答	個数	比率
地域がん診療連携拠点病院	296	49.5%
都道府県がん診療連携拠点病院	278	46.5%
特定領域がん診療連携拠点病院	7	1.2%
国立がん研究センター	5	0.8%
地域がん診療病院	4	0.7%
小児がん診療病院	3	0.5%
大阪府がん診療拠点病院	2	0.3%
わかりません	1	0.2%
国立がん研究センター中央病院	1	0.2%
大阪府指定がん診療拠点病院	1	0.2%
総計	598	100.0%



II. 調査項目

1. 治療に伴う外見変化の出現について、患者に説明していますか？

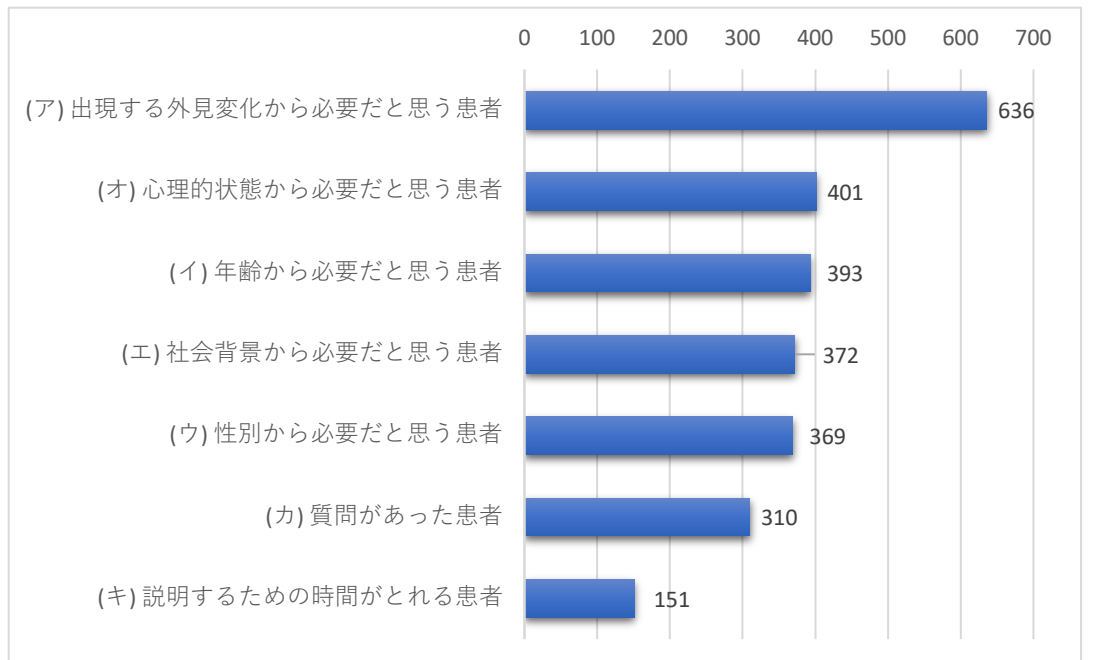
回答	人数	比率
① 必ずしている	544	67.4%
② よくしている	206	25.5%
③ あまりしていない	50	6.2%
④ 全くしていない	7	0.9%
総計	807	100.0%



S-Q ①~③と答えた方に質問します。どのような患者に説明していますか？（複数回答可）

※複数回答可のためピボットテーブルで集計不可
 その他の回答は別シートへ（下記リンクをクリック）
[シート『どのような患者に説明していますか その他回答』](#)

回答	人数
(ア) 出現する外見変化から必要だと思う患者	636
(オ) 心理的状态から必要だと思う患者	401
(イ) 年齢から必要だと思う患者	393
(エ) 社会背景から必要だと思う患者	372
(ウ) 性別から必要だと思う患者	369
(カ) 質問があった患者	310
(キ) 説明するための時間がとれる患者	151



前の質問で『(ア) 出現する外見変化から必要だと思う患者』をチェックした方に質問します。

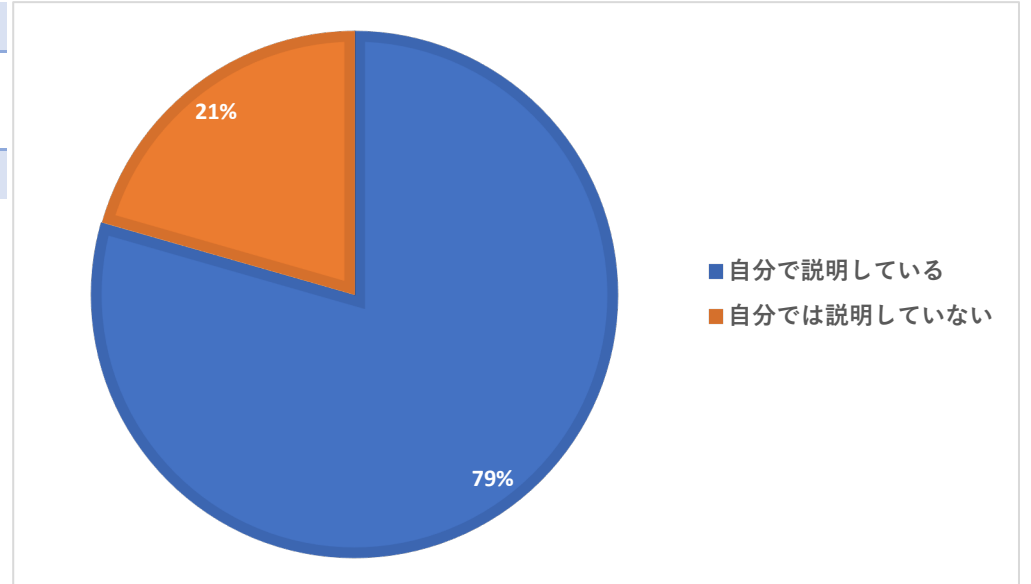
SQ：説明を行う外見変化を具体的にお答えください

回答は別シートへ（下記リンクをクリック）

[シート『説明を行う外見変化を具体的に』](#)

2.治療に伴う外見の変化について、その対処方法を患者に説明していますか？

回答	人数	比率
自分で説明している	641	79.4%
自分では説明していない	166	20.6%
総計	807	100.0%



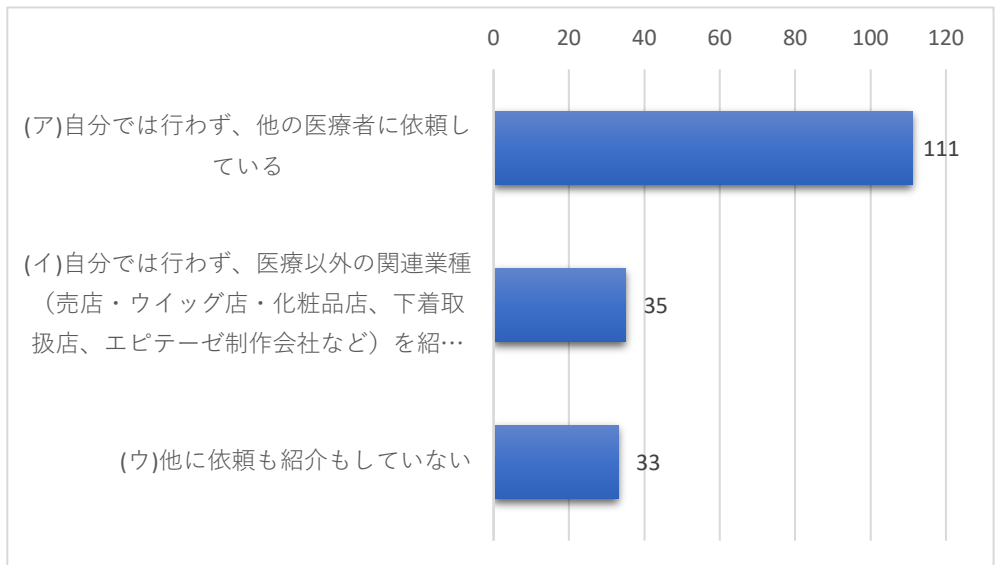
S-Q 『自分では説明していない』と答えた方に質問します。以下当てはまるものを選んでください（複数回答可）

※複数回答可のためピボットテーブルで集計不可

その他回答は別シートへ（下記リンクをクリック）

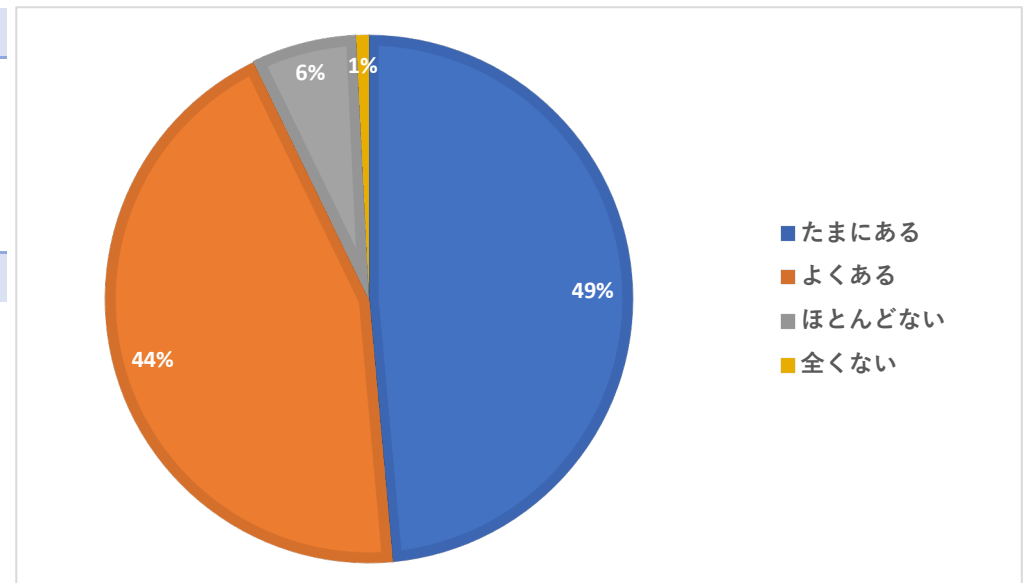
[シート『自分では説明していない』](#)

回答	人数
(ア)自分では行わず、他の医療者に依頼している	111
(イ)自分では行わず、医療以外の関連業種（売店・ウィッグ店・化粧品店、下着取扱店、エピテーゼ制作会社など）を紹介...	35
(ウ)他に依頼も紹介もしていない	33



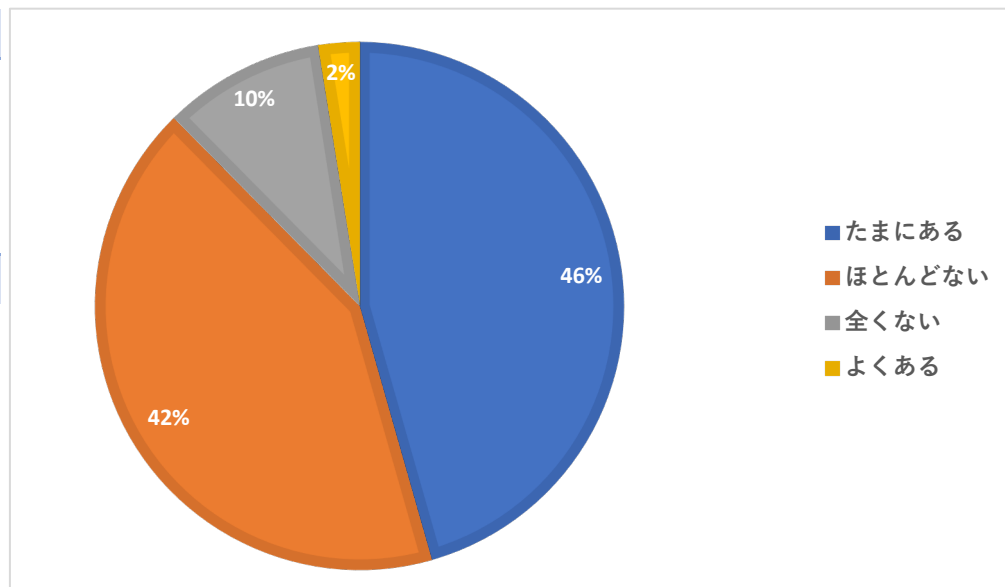
3.治療に伴う外見の変化について、患者から質問や相談をされることはありますか？

回答	人数	比率
たまにある	392	48.6%
よくある	357	44.2%
ほとんどない	52	6.4%
全くない	6	0.7%
総計	807	100.0%



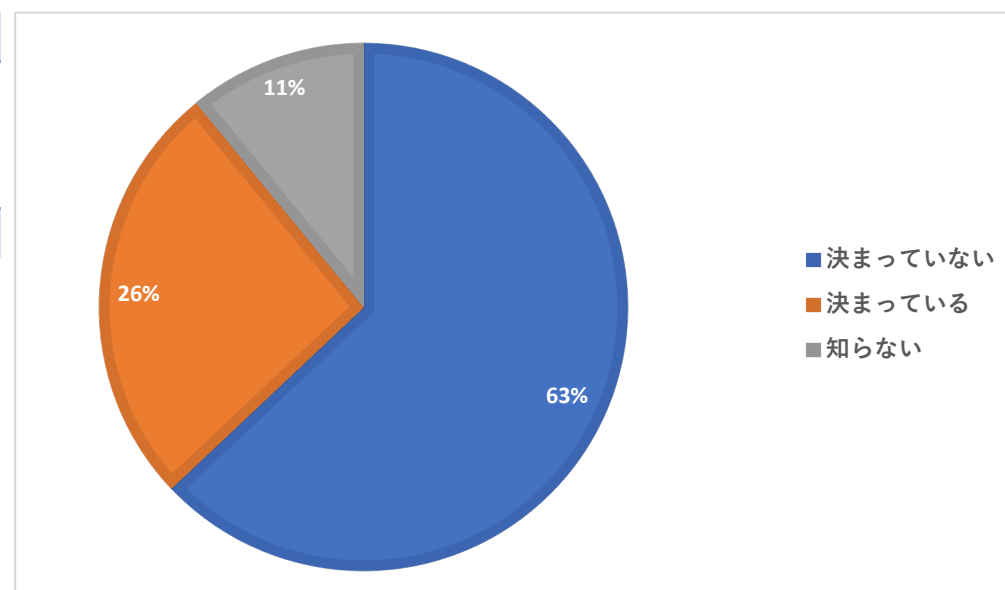
4. 治療に伴う外見の変化を理由に、患者から治療を拒否されたり、変更した経験はありますか？

回答	人数	比率
たまにある	368	45.6%
ほとんどない	339	42.0%
全くない	80	9.9%
よくある	20	2.5%
総計	807	100.0%



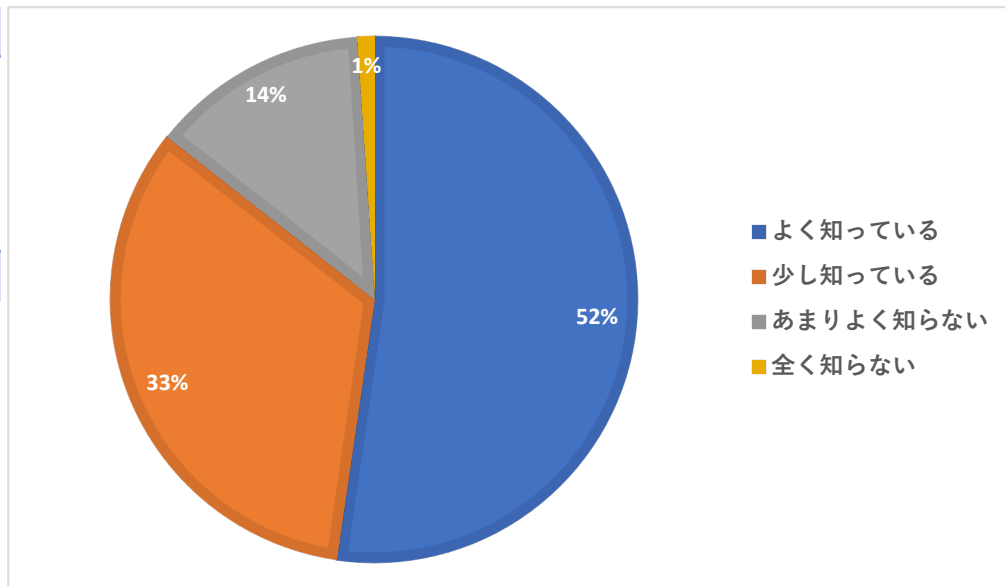
5. 貴院では、治療に伴う外見の変化を扱う部門や担当者が決まっていますか？

回答	人数	比率
決まっていない	508	62.9%
決まっている	211	26.1%
知らない	88	10.9%
総計	807	100.0%



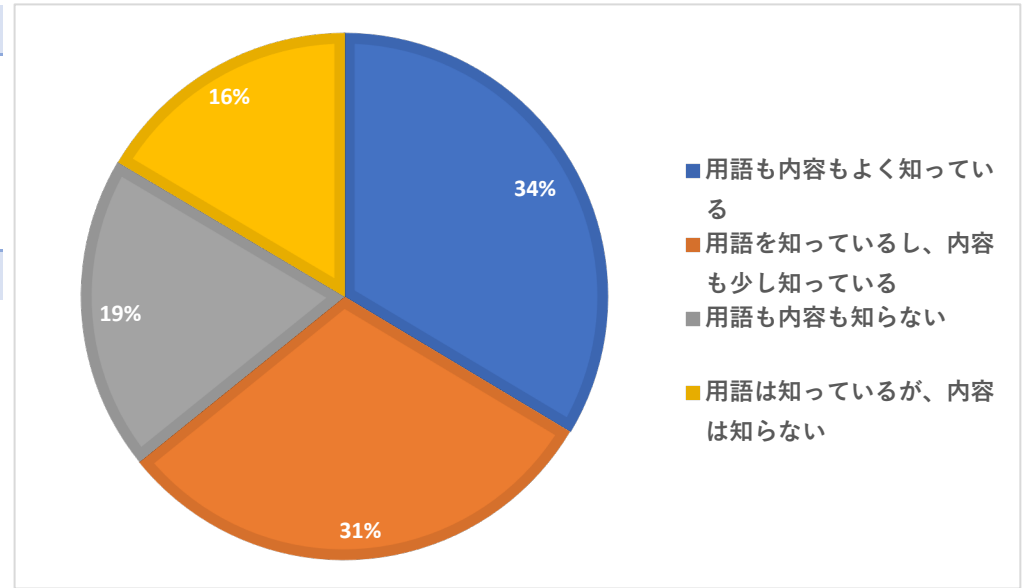
6. 治療に伴う外見の変化が、患者にとっては単なる身体症状ではなく、がんを想起させる症状であることから、その心理や社会活動に大きく影響することはご存知ですか？

回答	人数	比率
よく知っている	422	52.3%
少し知っている	269	33.3%
あまりよく知らない	108	13.4%
全く知らない	8	1.0%
総計	807	100.0%



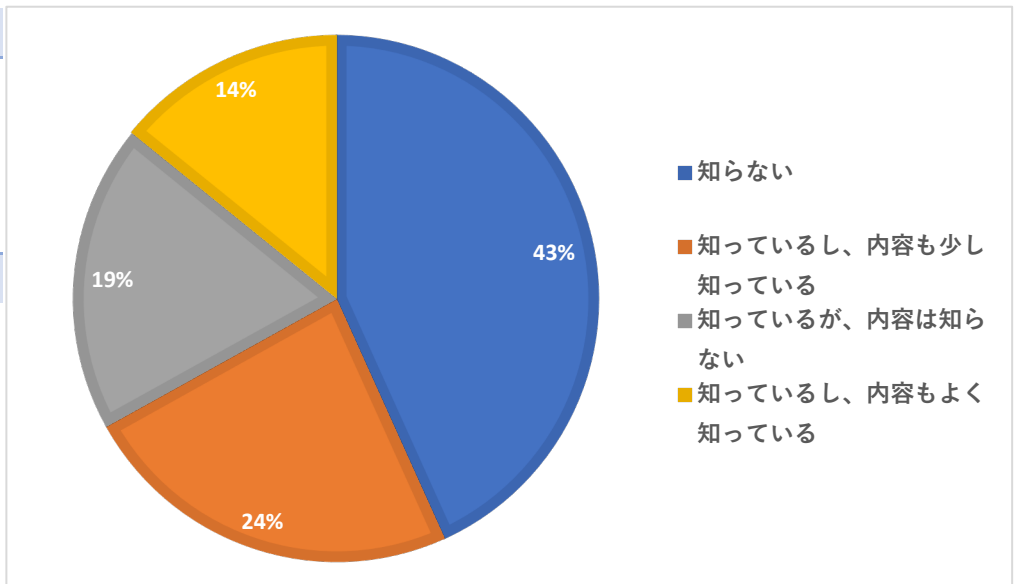
7. 治療に伴う外見の変化から生じる悩みや困りごとを軽減し患者のQOLを向上させる医療者のアプローチを「アピランスケア」と呼びますが、この「アピランスケア」という用語をご存知ですか？

回答	人数	比率
用語も内容もよく知っている	271	33.6%
用語を知っているし、内容も少し知っている	247	30.6%
用語も内容も知らない	156	19.3%
用語は知っているが、内容は知らない	133	16.5%
総計	807	100.0%



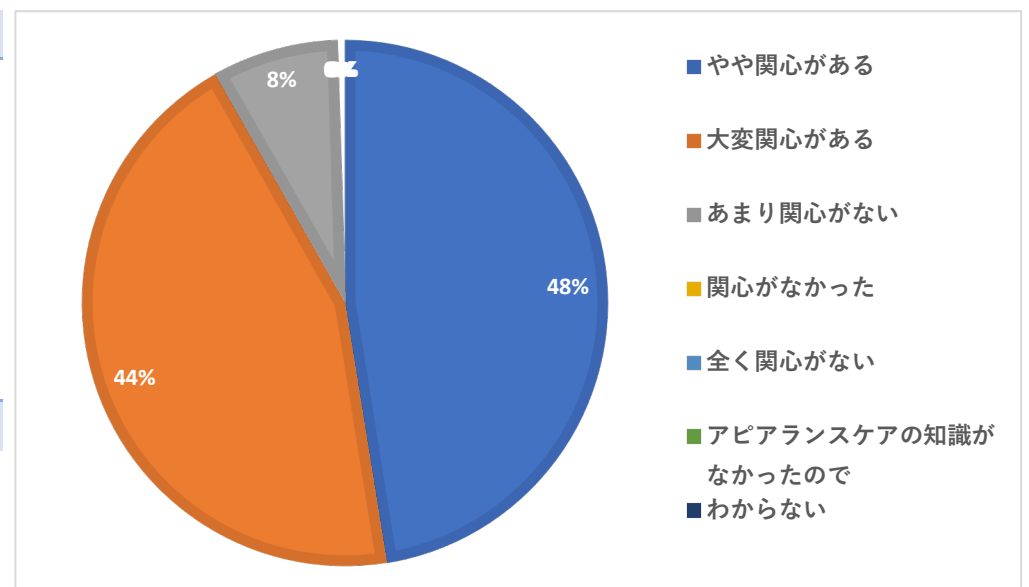
8. 「アピランスケア」についてはガイドラインが発行されていることをご存知ですか？

回答	人数	比率
知らない	349	43.2%
知っているし、内容も少し知っている	191	23.7%
知っているが、内容は知らない	153	19.0%
知っているし、内容もよく知っている	114	14.1%
総計	807	100.0%



9. あなたは、がん患者の外見に関する身体・心理・社会的問題の解決を目指すアピランスケアによる患者支援（他職種との連携を含む）に関心がありますか？

回答	人数	比率
やや関心がある	383	47.5%
大変関心がある	358	44.4%
あまり関心がない	62	7.7%
関心がなかった	1	0.1%
全く関心がない	1	0.1%
アピランスケアの知識がなかったの で	1	0.1%
わからない	1	0.1%
総計	807	100.0%

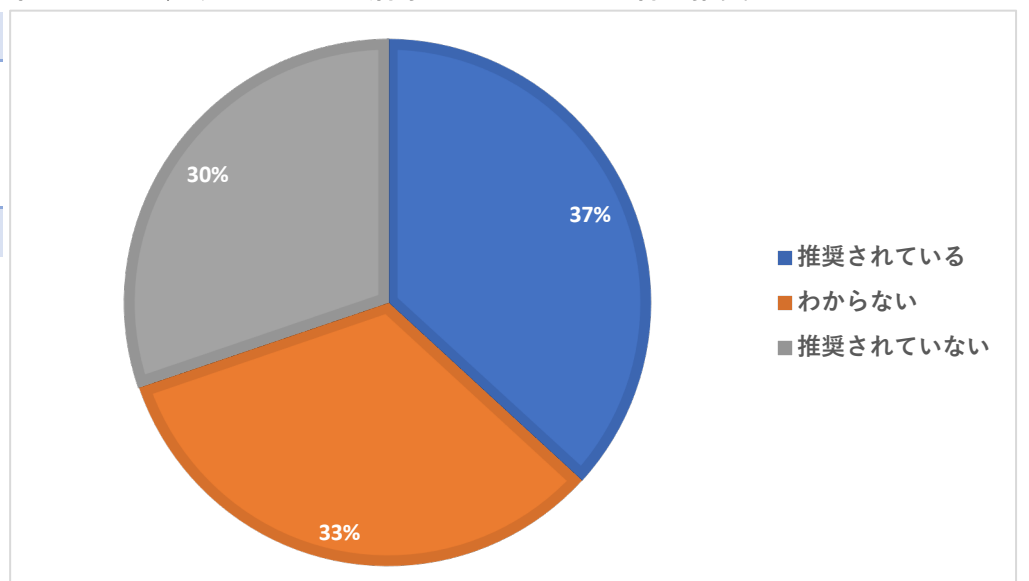


10. 以下について、アピランスケアガイドラインを前提に、適切だと思うものを選んでください

10-1

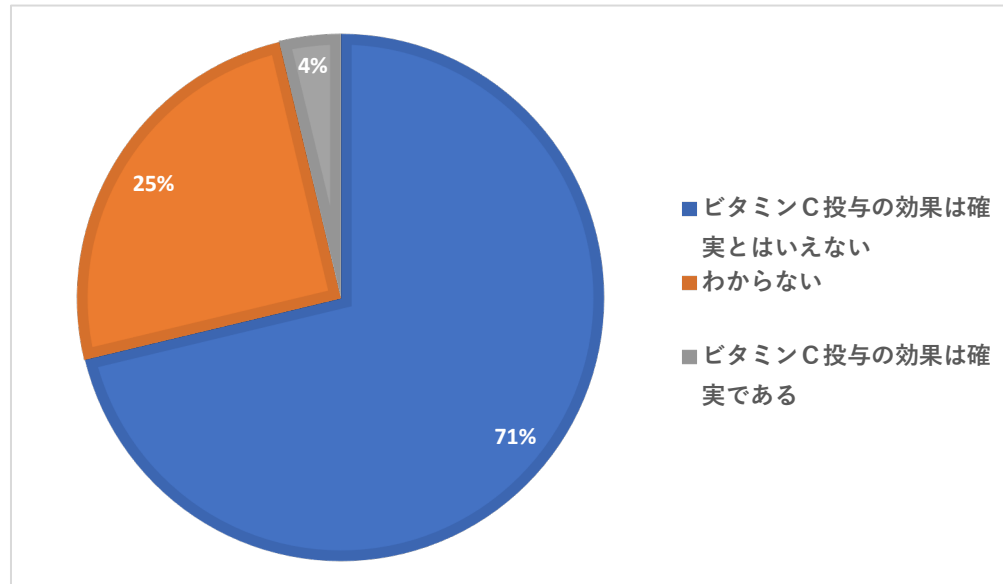
1) 化学療法誘発性脱毛の予防や重症度軽減に頭皮クーリングシステムを行うことは、脱毛が生じる治療をする全ての患者に推奨されている

回答	人数	比率
推奨されている	297	36.8%
わからない	266	33.0%
推奨されていない	244	30.2%
総計	807	100.0%



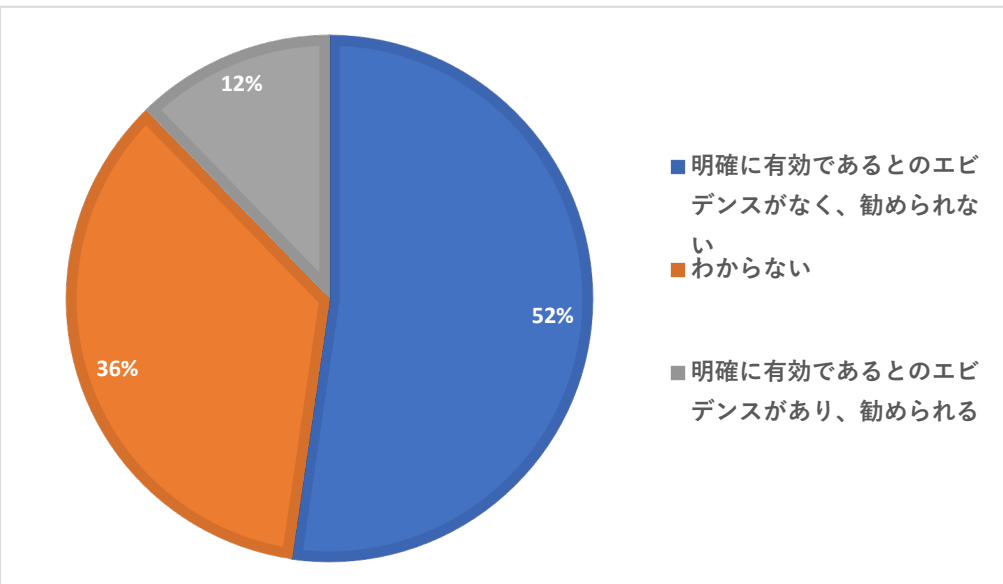
2) 化学療法による皮膚色素沈着の予防や治療として、ビタミンC投与の効果は確実か

回答	人数	比率
ビタミンC投与の効果は確実とはいえない	575	71.3%
わからない	202	25.0%
ビタミンC投与の効果は確実である	30	3.7%
総計	807	100.0%



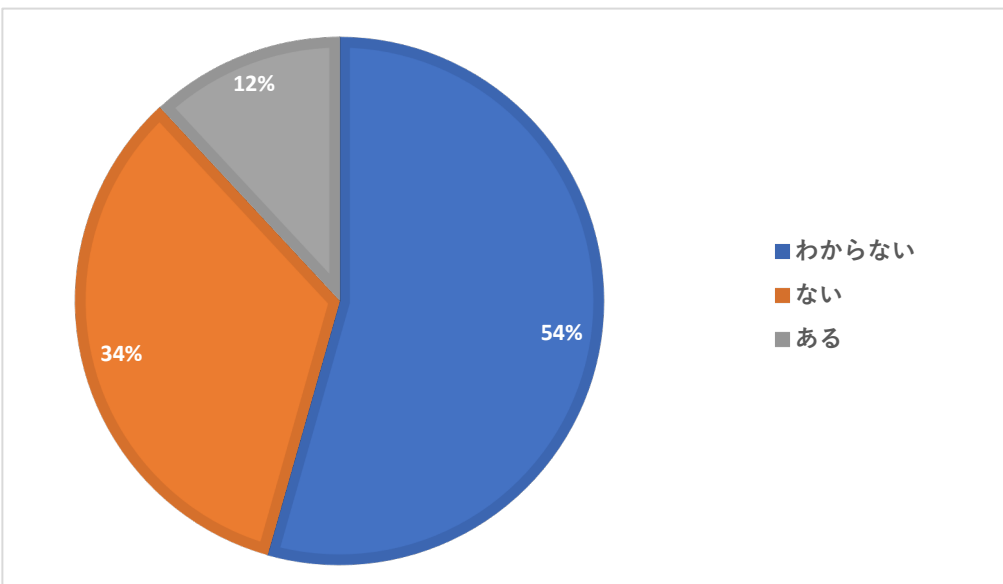
3) 手足症候群の予防や発現を遅らせる目的でビタミンB6を投与することは勧められるか

回答	人数	比率
明確に有効であるとのエビデンスがなく、勧められない	422	52.3%
わからない	286	35.4%
明確に有効であるとのエビデンスがあり、勧められる	99	12.3%
総計	807	100.0%



4) 化学療法による脱毛の再発毛促進に頭皮マッサージの効果は有用とのエビデンスがあるか

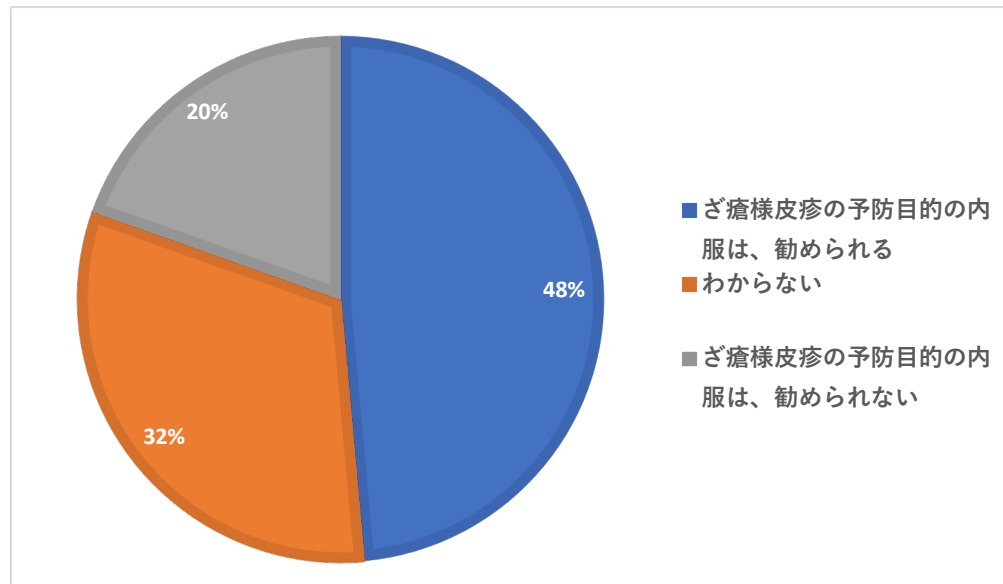
回答	人数	比率
わからない	439	54.4%
ない	272	33.7%
ある	96	11.9%
総計	807	100.0%



10-2

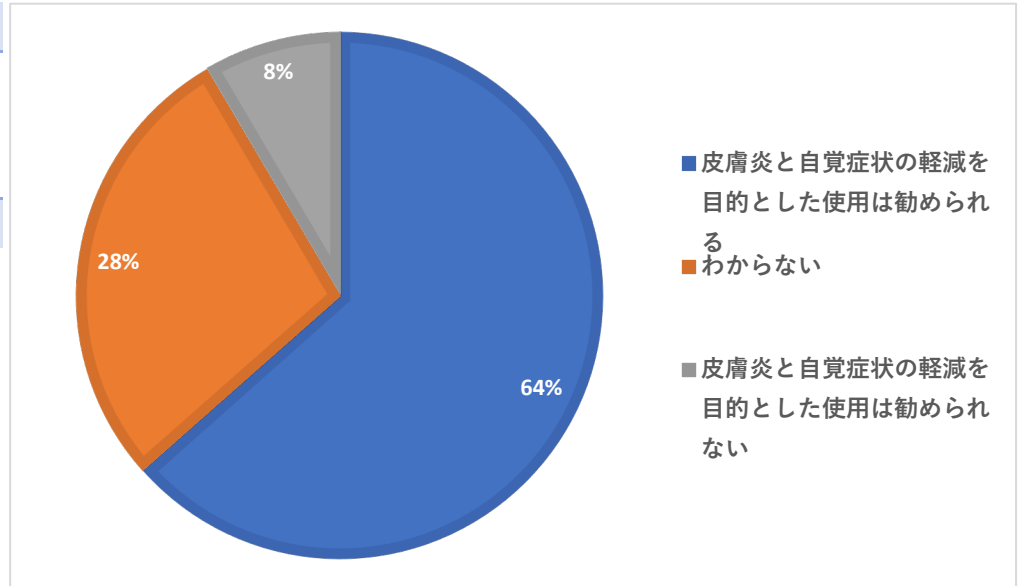
5) 分子標的治療 (EGFR 阻害薬等) に伴うざ瘡様皮疹に対してテトラサイクリン系抗菌薬の内服は勧められるか

回答	人数	比率
ざ瘡様皮疹の予防目的の内服は、勧められる	392	48.6%
わからない	257	31.8%
ざ瘡様皮疹の予防目的の内服は、勧められない	158	19.6%
総計	807	100.0%



6) 分子標的治療 (EGFR 阻害薬等) に伴うざ瘡様皮疹に対して副腎皮質ステロイド外用薬は勧められるか

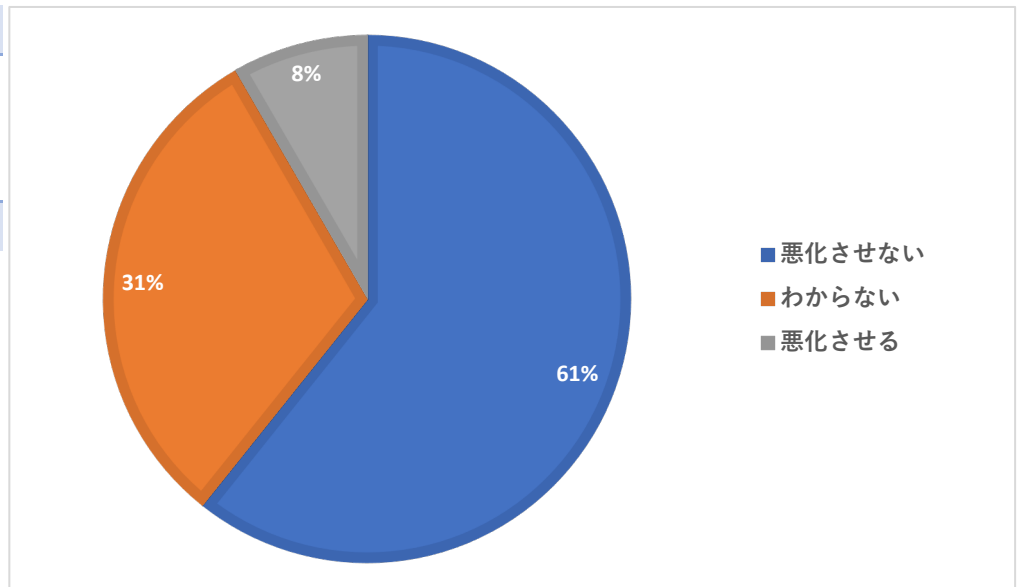
回答	人数	比率
皮膚炎と自覚症状の軽減を目的とした使用は勧められる	512	63.4%
わからない	227	28.1%
皮膚炎と自覚症状の軽減を目的とした使用は勧められない	68	8.4%
総計	807	100.0%



10-3

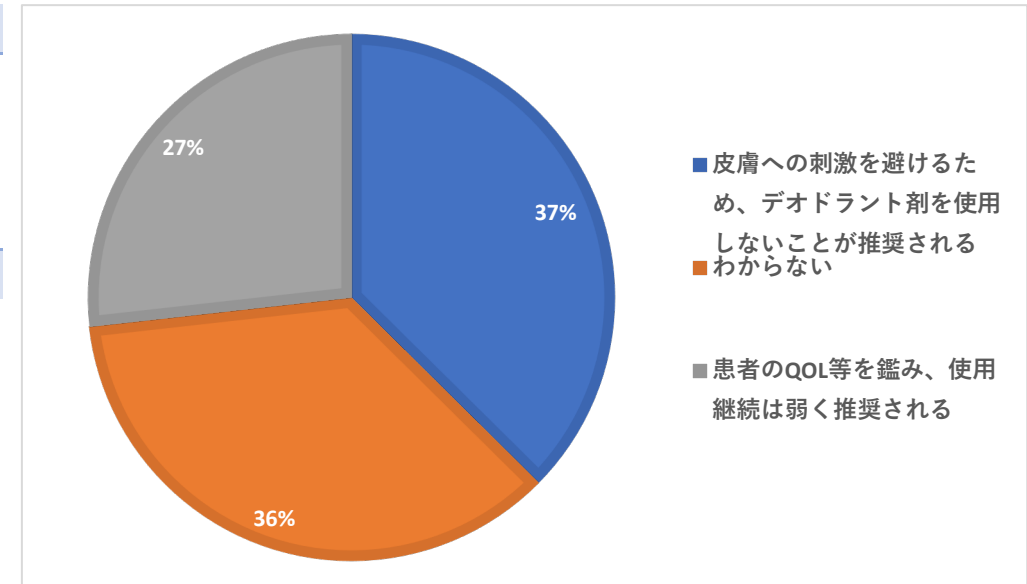
7) 放射線治療中の照射野の洗浄は、放射線皮膚炎を悪化させるか

回答	人数	比率
悪化させない	490	60.7%
わからない	250	31.0%
悪化させる	67	8.3%
総計	807	100.0%



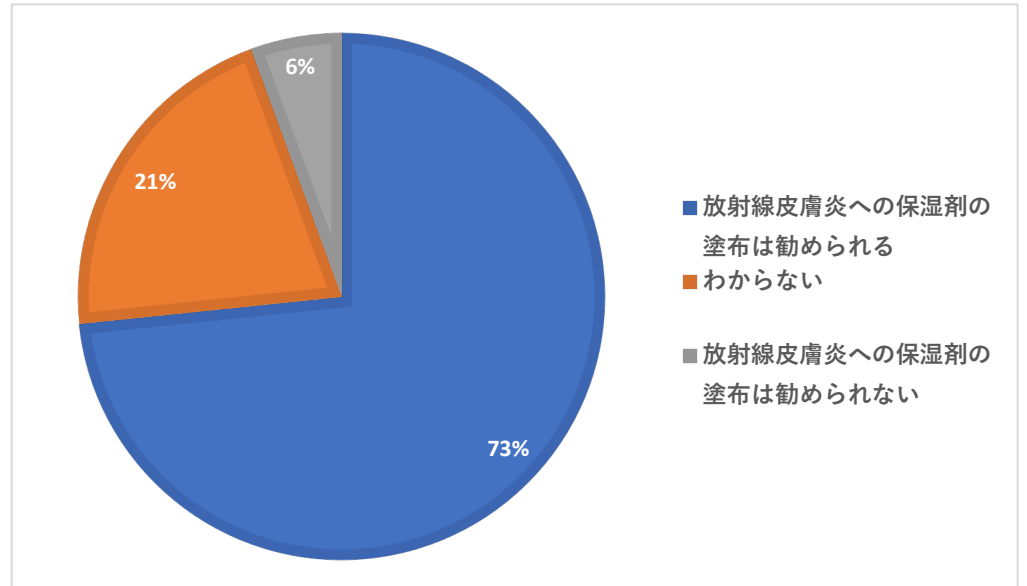
8) 胸部から腋窩などへの放射線治療時に、デオドラント剤 (制汗・消臭剤) を腋窩に使用継続してもよいか

回答	人数	比率
皮膚への刺激を避けるため、デオドラント剤を使用しないことが推奨される	302	37.4%
わからない	289	35.8%
患者のQOL等を鑑み、使用継続は弱く推奨される	216	26.8%
総計	807	100.0%



9) 放射線皮膚炎の軽減/予防のために照射部位への保湿剤の塗布は勧められるか

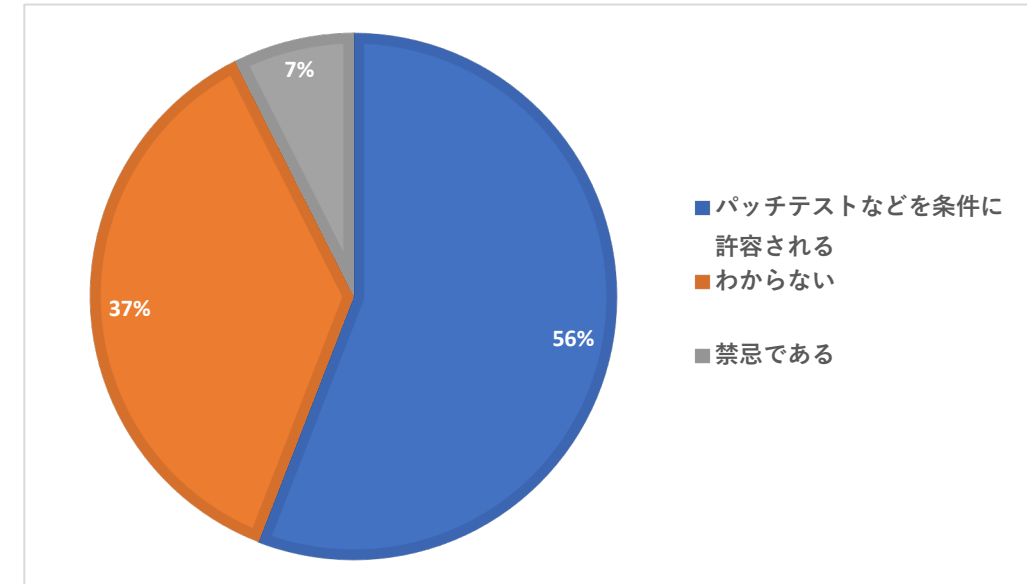
回答	人数	比率
放射線皮膚炎への保湿剤の塗布は勧められる	592	73.4%
わからない	170	21.1%
放射線皮膚炎への保湿剤の塗布は勧められない	45	5.6%
総計	807	100.0%



10-4

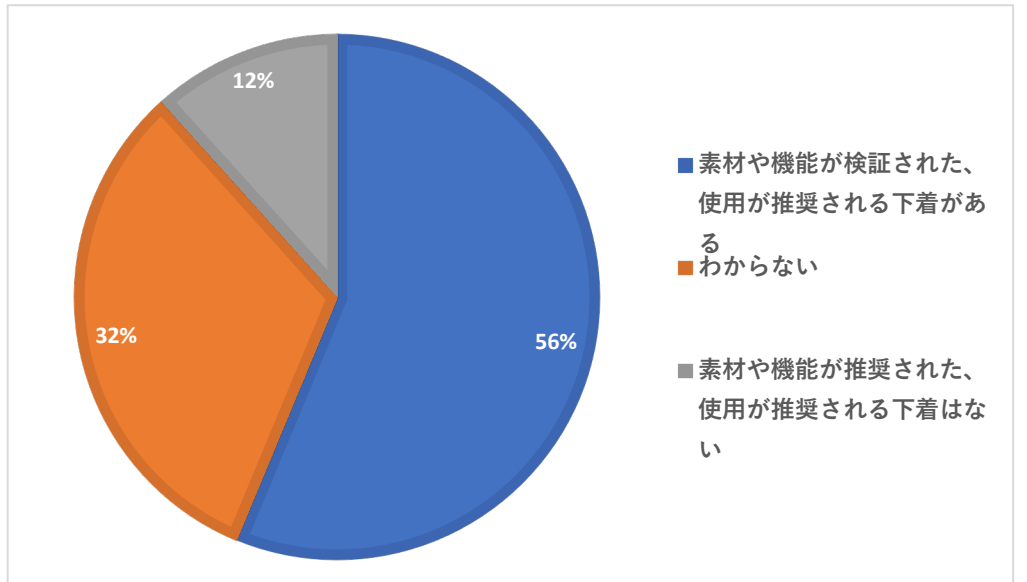
9) 化学療法終了後に再発毛し始めた患者や脱毛を起こさない化学療法を施行中の患者は染毛してよいか

回答	人数	比率
パッチテストなどを条件に許容される	451	55.9%
わからない	296	36.7%
禁忌である	60	7.4%
総計	807	100.0%



10) 術後（乳房再建術後など）に使用が勧められる特別な下着はあるか

回答	人数	比率
素材や機能が検証された、使用が推奨される下着がある	454	56.3%
わからない	259	32.1%
素材や機能が推奨された、使用が推奨される下着はない	94	11.6%
総計	807	100.0%



11.あなた自身やあなたの部門で、外見変化に関して患者の対応に困った経験などがあったら教えてください

回答は別シートへ（下記リンクをクリック）

[シート『困った経験』](#)